

---

# 双 子 恋 愛

景那

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

双子恋愛

### 【Nコード】

N9600G

### 【作者名】

景那

### 【あらすじ】

知らなかった・・・運命ってこんなにも奇跡的で残酷なんだね・・・

・イケナイコイモノガタリ・

私の名前は跡部侑哩。

いまは、お母さんと2人で暮らしています。

お父さんとお母さんは私が生まれてすぐ離婚し

お父さんには1回も会ったことがない・・・。

お父さんがいなくて寂しいこともあるけど

不幸だな。なんて思ったことはありません。

お母さんはいつも私のことよく分かってくれてるし

相談にも乗ってくれる。

本当にいいお母さんなの！

お父さんとお母さんが離婚して16回目の春・・・。

私は高校生になりました。

地元の桜華女子高校に進学して毎日楽しい生活を送ってます。

私に双子の兄がいると聞いたのは

中学3年の春。

お母さんの口から聞かされました・・・。

「もう話しても大丈夫よね。」

「なに・・・？」

「侑哩、あなたには双子の兄がいるわ。」

「え・・・？お兄ちゃん・・・？」

「そうよ。今まで内緒にしててごめんなさい。」

「大丈夫だよ・・・色々教えて？お兄ちゃんやお父さんのこと！」

「そうね。いっぱい話すわ。」

それから沢山のことを聞いた。

お父さんの顔や名前も知らなかった私。

だから急に言われて驚いたのは本心・・・

でもなんか嬉しかった。

お父さんの名前は「カズキ」兄の名前は「ミツキ」。

生まれたとき私とミツキはそっくりだったんだって・・・

お爺ちゃんにもお婆ちゃんにも祝福されて

お母さんは本当に嬉しかったって・・・。

## 合コン1

5月

「侑哩！」

「なにー？美咲。」

「明日の大和一高との合コン行くでしょー？」

「あーうん！」

「アイツのセッティングだから期待できないけど！」

高校に入ってから仲良くなった友達の深津美咲。

美咲は近くにある大和一高という男子校に中学の友達がいるらしく合コンをセツトしてくれたらしい。

私は、高校に入るまで殆ど恋愛に興味がなかった。

私のことを好きだと言ってくれた人もいた。

正直に嬉しかった。付き合った人もいた。

でも長続きはしなかった・・・

私がいつも悪いの。でも相手の人たちは笑って

「ありがとう」

そう言って去っていく。優しい人たちだった。

だからもう少し大人の恋愛を試みたいから

美咲の話もOKした。

「えっと・・・明日9時に駅前南口集合だから」

「りょうかい」

「めっちゃお洒落してきなー！」

「えー無理無理！」

「無理とか言わない！」

私の弱気な発言に美咲は背中をバシ！と叩いて喝をいれた。

「いったー！！」

「へへーん！弱気だからいけないんだよーだ」

「もー！明日起きれなくなったらどーすんの！」

まさか考えもしなかった。

この合コンで私達が会うなんて・・・  
どうして出会ってしまったんだろう。

お兄ちゃん・・・。ううん、ミツキ・・・。

ねえ神様。

あなたは本当に意地悪なんですね。

どうして私達を出会わせたの？

どうしてこのタイミングで？

どうしてこのシチュエーションで？

ねえ・・・神様・・・？

## 合コン2

昨日美咲と待ち合わせた時間に間に合うように南口に来た。  
いつもの場所にまだ美咲はいなくて  
一緒に行くメンツの3人が来ていた。

「侑哩おはよ」

「おはよー」

神崎麻奈

五十嵐哀歌

佐藤真由

3人は美咲と中学から一緒で  
ももとのグループ。

そこに私が入った感じ。

でも中学の時みたいな不安はない。

このグループにいると落ち着くしみんなサバサバした性格で  
話していて楽だったりする。

「美咲まだだしー」

「美咲っていつつも（笑）」

「仕方ないよー美咲だもん。」

口々に挨拶をし美咲の話で笑いあう。  
本当にみんな良い子だなあ・・・。

「みんなー！遅くなった？」

そんなところに美咲が来た。

「おはよー」

「まだ大丈夫」

「よかったー」

美咲の後ろには男の子が立っていた。

「お、浩太じゃん！」

「真由、哀歌、麻奈、久しぶり！」

真由が男の子に言うと

浩太と名乗る子が3人に微笑みかける。

「この子が侑哩ちゃん？」

「あ・・・はい。」

急に話を振られて少しか細く答えると  
麻奈が助け舟を出してくれた。

「もう口説く気？」

「違うよ。今日のツレに似てるからさ。」



「ツレ？」

「そう。まあカラオケに行ってから紹介するよ。」

そう言って男子が待つカラオケに行くことになった。

私の心の中は浩太君の言葉でいっぱいだった。

”今日のツレに似てるからさ”

何で似ているんだろう・・・。

### 合コン3

カラオケに着き部屋に入ると4人の男子が座っていた。  
もつとチャラそうな人が来るのかと思ったら  
みんな爽やか系の人で少し安心した。

「お待たせ、女子連れてきたぞ。」

「こんにちは。」

浩太君に続き部屋に入る私達。

美咲はもう挨拶までしちゃってるし・・・。

「じゃあ自己紹介すつかー俺は知ってのとおり渡部浩太。よろしくー」

「女子幹事の深津美咲です よろしく！」

「俺は酒井亮。サッカー部です！」

「神崎麻奈です。バレエ部やってます！」

「SSSの穴戸慎二です。穴戸のS、慎二のS、サッカーのSよろしく！」

「五十嵐哀歌です浩太と同じくバスケやってまーす！」

「大森工です。俺もバスケ部なんで。」

「佐藤真由です。書道の師範持ってます！」

みんなが次々と自己紹介をしだんだん私の番になって胸の鼓動が高鳴り顔が高潮する。

「忍足三月。よろしくー」

「あ・・・えと。跡部侑哩です。」

緊張してとりあえず名前だけ言って頭をさげた。  
でも耳に残る名前。

”ミツキ”

「なーなー三月と侑哩ちゃんって似てねえ？」

「えー？あー本当だあ・・・」

私はおそるおそる顔を上げると  
自分でも驚くくらい似てる人がいた。

「へえー・・・」

本人の三月くんは声も出さずこっちをみている。  
人違いだね・・・？

お兄ちゃん・・・？そんなはずないよね。  
でも気になるよ・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9600g/>

---

双 子 恋 愛

2010年10月15日23時58分発行